

チューリッヒ日本人学校

学校だより

2009年7月10日

7月号 NO4

JAPANISCHE SCHULE IN ZÜRICH

発行責任者 島田清人

一学期無事に終了

年度末4名の帰国の先生方を見送り、3名の新しい先生方を迎え新年度がスタートしてから、3か月が過ぎようとしています。1名減員となりましたが、日々の教育活動は今までと変わりませんから、当然のことながら先生方の負担は多くなりました。このような中で、教育の質が低下しないよう努力してまいりました。多くのご理解とご支援のおかげで一学期の終業式を迎えることができました。ありがとうございました。

なお、6月11日の学校運営委員会で承認され、19日の日本人学校総会において、学校運営委員会の新役員の方々が決まりました。お世話になります。どうぞよろしくお願いたします。

委員長：清田 宗明様、副委員長：彦田 祥一様 増田 努様、常葉 大様

委員：※村上 岳司様（大使館）、青砥 玄様 島田 清人様 大久保芳子様 ※後任は、河野 芳美様

監事：渡辺 道明様

サマーキャンプ ～出会いと発見～ 7月1日～3日

サマーキャンプは、スイスの自然や歴史・文化を学び、児童生徒の自主性や社会性の基礎を養うことを目的としています。本年度はスイス連邦の基礎となった中央スイス(schwyz を中心に)で実施しました。

一日目

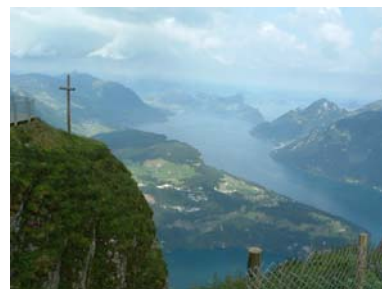
ハイキングというので、なだらかな山道を思い描いていたのですが、かなり急な斜面もあり、途中小休止を取りながら1時間30分かけてFronalpstock 山頂に辿り着きました。

(さすがにスイスの登山道は整備されていますね)

眼下に広がるまっ青な湖やリュトリの丘と周辺の緑の山々は疲れを吹き飛ばしてくれました。汗をかいた後の弁当は格別美味しく感じられました。

全員で記念写真を撮った後、登りとは別のコースを、ガイドさんから高原植物の説明を聞きながら下山しました。

途中 牧場の柵を修理したり、酸っぱくて牛が食べない「スイバ」を大きな鎌で刈ったりしている農家の方(夫婦)に出会いました。お花畑では、大きなアザミの花(アルプスアザミ)、釣鐘草、採取禁止の赤いリンドウ(ゲンディアナ・ブルプレア)、かわいい忘れな草等見ることができました。(残念ながらエーデルワイスは咲いていませんでした。)



休憩はチーズ工場（家内）も経営しているレストランで、ガイドさんの粋な計らいにより、冷たい牛乳とチーズとパンをごちそうになりました。冷たい一杯の牛乳は乾いた喉をうるおしてくれ、その上、その場に居合わせた登山者の夫妻の弾くアコーディオン（スイスの伝統的な楽器エルゲリー）でスイスの音楽まで楽しむことができました。その後、チーズ工場も見学させていただきました。チーズは、650リットルの牛乳から 10 個作られるという説明を聞きながら、そのできる工程を自分の目で学ぶことができました。

今回、普段の生活の中では見ることはできない、スイスの違った側面を学ぶことができたように思います。 赤いリンドウ



二日目

二日目は、朝 6 時 30 分に起き、「クラス別行動」です。

小 3・4 年は「リュトリの丘見学」「歴史博物館見学」、小 5・6 年は「アルトドルフの見学」「スイスの道散策」「歴史博物館」、中 2・3 年は、「ガラス工房見学」「ハイキング」に出発しました。

◇「リュトリの丘見学」「歴史博物館見学」(小学部 3・4 年)

スイス建国の誓いが行われたリュトリの丘では、「やさしい気持ちを持ち、協力しあって生きていこう」という自分たちなりの誓いを立ててきました。

歴史博物館では、ガイドさんのお話を聞いてメモをとりながら、昔の人々の生活について学んでくることができました。また、この 2 日間、担任からは「自分のことは自分です」ということを願ってきましたが、みんな甘えることなくやり遂げられました。

楽しく笑いあう場面、一生懸命学んでいる場面、ちょっと険悪なムードになる場面、そのムードを切り替えようとする場面、このサマーキャンプの間、児童のいろいろな面を見ることができました。そのすべてが、普段の学校生活では経験することができない貴重な体験になったことと思います。 *写真は、リュトリの丘で誓いを立てているところです。



◇「アルトドルフの見学」「スイスの道散策」「歴史博物館」(小学部 5・6 年)

ウィリアムテル、スイス建国ゆかりの地を訪問しました。事前に学習していたものを実際に見ることで、感じるものがたくさんあったようです。歴史博物館では、ガイドさんの話をしっかり聞き、メモをたくさんとっていました。スイスの歴史について理解が深まったようです。実際に当時の服を着せてもらったのも良い経験になりました。



◇ガラス工房見学・体験と Stoos ハイキング (中学部)

午前中は Hergiswil のガラス工房へ行き、スイスのガラスの歴史を学び、ガラス吹きを体験してきました。ガラス工房の中では、当時の雰囲気を作り出したブースの中を英語のガイドに従って次々に進んでいきます。イタリアからガラス職人が移り住んできたことや、オートメーション化の時代の中で一度は閉鎖に追い込まれたが、ガラスの素材





にこだわり、再チャレンジして今に至っていることなどを学んできました。

午後からは、Stoos の中腹を3時間くらいかけてハイキングしました。途中、様々なことがあり、立ち止まって自分の目標を再確認しなければならなくなりましたが、話し合いの後は互いのことに気を配りながら花を摘んだり景色を見る余裕が生まれたりと、楽しく歩くことができました。学校では経験できないことを学びました。

◇遠足（小学部 1・2 年）

上級生達がサマーキャンプに行っている間、小学部 1・2 年はラッパーズヴィル子ども動物園へ遠足に行きました。「自分たちでできることは自分たちで頑張る」「6 人いっしょに楽しもう」「生活科で学習したことを生かそう」を活動テーマとし、快晴のもと、学級が一つになって活動することができました。自分たちで販売機を使用したり、窓口でドイツ語に挑戦したりと、スイスにある学校、少人数の学級ならではの活動ができました。また、象やらくだの背中に乗ったり、象にえさをあげる体験をしたり、この動物園でしかできない経験をたくさん積み重ね、充実した時間を過ごしました。この取り組みをきっかけに、集団として前進したいと思います。



三日目 **サマーキャンプを終えて**

朝、前半はクラス別ハイキング、後半がバーベキューでした。途中雷が鳴り大粒の雨が降ってきましたが、子ども達は雨の中火を燃やし続け、ソーセージとデザート用のグミとマシュマロのバーベキューをみんなで楽しみました。しばらくすると雨雲は通り過ぎていきました。



サマーキャンプ実行委員会を中心に計画を立て、事前に準備を進めてきました。新しい学習指導要領では、子どもたちの社会性や豊かな人間性を育むために発達段階に応じて、集団宿泊訓練や自然体験活動等の「体験学習の充実」を重視しています。

子ども達は、食事の準備や片付けや夜のレクなど、自分たちでできることは、自分たちで自主的に活動をしていました。異年齢の子ども達が、集団で生活をするを通して、お互いに気持ちよく生活するためにどうすればいいのか、力を合わせ、努力・工夫することの大切さを学んだように思います。

保護者ボランティアに感謝

季節の装飾絵創り、校庭の芝刈り・草取り、読み聞かせ、図書の整理、算数教材の整理、玄関の花等 今年度も学校の施設の整備をしたり、環境を整えたり、本を通して子どもの心を育てていただいたり、たくさんのご支援を賜っております。



気持ちよく安心して学校生活を送れるよう願って活動して下さっていることを、子ども達も感じていると思います。心より感謝申し上げます。

< 8 月の行事 >

日	曜	行 事	日	曜	行 事
17	月	2 学期始業式	24	月	校長子ども面談開始（クラス別）
18	火	安全点検、中学部実力テスト（～19日）	28	金	進路学習会（中学部）
21	金	身体測定	30	日	学力テスト③

中学部3年生 学級経営方針

学級担任・吉木 優子

1 学期の大きな行事であるサマーキャンプを終え、夏休みまでのカウントダウンが始まっています。今年度の中学部3年生は一名でのスタート。その後、同級生が増えることなく、最高学年であるたった一人の中学3年生として、いろいろなプレッシャーを感じつつも、低学年の遊びの相手をする「優しいお兄ちゃん」や、全体をリードする頼りがいのある「兄」として頑張ってくれています。日本人学校で過ごす最後の1年が、より有意義で実りと学びの多い物になるよう、担任も一緒に二人三脚で頑張っていきたいと思っています。

Einsichtig und Rücksicht

～けじめと気配り～

これが今年度の学級目標です。この目標は、一年後にこうありたいという自分の姿を想像しながら設定したものでした。この目標をいつも意識し、果たして自分がこの目標に向かって進めているかを常に自分に問いかけ、本当の意味でのけじめと気配りができるようになることを目指したいと考えています。

担任として

この一年間で子どもに意識させたいと思うことは「自立」と「自律」です。

「自立」については、少人数校であるため、何かと細かく声をかけられることに慣れてしまっている部分が見受けられるので、自分で考えて行動する事を常に意識させ、自分が何をすべきなのかという事について、自分で正しく判断できるようになるために。

「自律」については、社会的なルールはもちろん、学校のさまざまな生活のルールなども含め、自己の尺度だけで物事を判断するのではなく、客観的に物事をとらえ、論理的に公正公平な判断をした上で正しく自己を律することができるようになるために。

社会生活を営む時間は、義務教育の時間の長さの何倍も長くあります。しかし、社会生活の中で必要とされる事は、学校生活の中でしつこいほど言われ続けることが基本にあるように感じます。「自立」と「自律」を意識した生活を身につけ、この一年間の中での様々なことと丁寧に向き合い、社会へ踏み出す一歩の手助けができればと思っています。